週刊相場観測誌
Ｍａｒｋｅｔ

展　望

Weekly Market Research Report
2024年8月19日号

ひろぎん証券

今週のPOINT

国内株式市場

5日続伸で38000円台まで回復、まずは200日線を支持線として意識か

今週の分析銘柄　－ FISCO Selection ８ －

ビックカメラ【 プライム 3048 】ほか

テーマ別分析

JPX400など新規採用銘柄に注目度が増す期待

話題のレポート

急落後も積極的な逆張り個人投資家

スクリーニング分析

決算発表一巡のタイミングで改めて好決算発表銘柄に注目

4-6月期の決算発表が一巡

株式会社フィスコ

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

1 今週の市場見通し	国内株式市場	マーケット概観	3
		新興市場	4
	米国株式市場		5
	為替市場	米ドル/円予想レンジ	6
	債券市場	債券先物・長期国債利回り予想レンジ	6
2 マーケットを読む	今週のポイント		7
	日経平均株価		8
3 今週の分析銘柄	FISCO Selection	アストロスケールHD〈186A〉グロース	9
		タウンズ〈197A〉スタンダード	10
		ビックカメラ〈3048〉プライム	11
		日本触媒〈4114〉プライム	12
		日本ゼオン〈4205〉プライム	13
		ｵｰﾋﾞｯｸﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ〈4733〉プライム	14
		オリックス〈8591〉プライム	15
		ノバレーゼ〈9160〉スタンダード	16
	読者の気になる銘柄	東京エレクトロン〈8035〉プライム	17
		フジクラ〈5803〉プライム	17
	テクニカル妙味銘柄	SWCC〈5805〉プライム	18
		丸大食品〈2288〉プライム	18
4 カテゴリー考察	テーマ別分析		19
	スクリーニング分析		20
	先週の話題レポート		21
	信用需給動向		22
5 連載コラム			23

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

5 日続伸で 38000 円台まで回復、まずは 200 日線を支持線として意識か

■米景気減速懸念後退で米国株上昇

先週の日経平均は週間で 3037.67 円高（＋8.67％）の 38062.67 円と大幅上昇。7 月の米消費者物価指数や小売売上高の内容が程よい結果となったことから、米景気後退観測は大幅に後退し NY ダウやナスダックなど米主要株価指数はそろって上昇した。米国市場の落着きや為替の円安ドル高を背景に、日本株は戻りを試す展開が強まった。8 月 15 日に発表された 4-6 月期国内総生産（GDP）が前期比＋0.8％、年率換算では同＋3.1％と 2 四半期ぶりに増加に転じたことで、メガバンクなど金融株や主力株が買われたことも加わり、日経平均は上昇継続。週末には、1 ドル＝149 円台まで円安ドル高が進んだことから、日経平均や TOPIX は 5 日続伸、ともに 200 日移動平均線を上回った。なお、週半ばに岸田首相が 9 月の自民党総裁選に出馬しないことを発表。為替は瞬間的に上下に動くような場面が見られたが、日本株への影響は限定的だった。

8 月第 1 週の投資主体別売買動向によると、外国人投資家は現物を 4554 億円買い越したほか、TOPIX 先物を 5962 億円売り越し、225 先物は 8332 億円売り越したことから、合計 9740 億円の大幅な売り越しとなった。一方、個人投資家は現物を 204 億円買い越すなど合計で 312 億円買い越し。なお、信託は現物を 2107 億円と買い越した一方、自己が現物を 1 兆 3150 億円売り越した。

■日経平均は 25 日線まで値を戻す

日経平均は 200 日移動平均線を上回り、37941 円水準で位置する 25 日移動平均線も上回り 38000 円台を回復した。25 日移動平均線は下向きのため、この水準を上回ってもトレンド転換につながるポイントではないが、約 1 カ月ぶりにこの水準を上回ったことで投資家マインドはより改善されよう。先週末 16 日の米国株式市場は続伸。ダウ平均は前日比 96.70 ドル高（＋0.24％）の 40659.76 ドル、ナスダックは同 37.22 ポイント高（＋0.21％）の 17631.72、S&P500 は同 11.03 ポイント高（＋0.20％）の 5554.25 で取引を終了した。大証ナイト・セッションの日経 225 先物は、通常取引終値比 450 円安の 37640 円で取引を終えた。週初の日経平均は反落スタートとなる公算は大きいが、37020 円で位置する 200 日移動平均線が下値支持として機能するか注目したい。

一方、投資家の心理状態を示す日経平均 VI は 26 ポイントまで低下した。5 日には 85 ポイントまで急騰したが、米国の VIX 同様、過度な先行き警戒感は後退しつつある。日米ともにボラティリティの低下を受けて、指数の上下に特化した短期筋の売買は徐々に減少。オーソドックスな経済指標や金融政策などに沿った投資に戻しつつある。なお、8 月 1 日から 16 日までの月間平均プライム市場の売買代金は 6.0 兆円と記録的な水準だ。週末のプライム市場の売買代金は 4.9 兆円とここまでの月中平均を下回っているが、信用に絡んだ投げ売りや追証発生など需給が崩壊しただけに、足元の 4 兆円台の売買代金はさほど気にする減少ではないと考える。

■9 月の自民党総裁選は新しい物色材料か

9 月末に新しい日本のリーダーが選ばれることとなったことで、しばらくは政局が手掛かり材料となる可能性はある。現時点で立候補を明確に表明した人物はいないが、名前があがっている茂木敏充幹事長、河野太郎デジタル相は、7 月末に金利を上げる必要性など日銀の独立性を尊重する姿勢を欠いた発言を行っていたことが記憶に新しい。また、石破茂元防衛相も円安の是正や金利を上げる必要性を主張していることから、茂木氏、河野氏、石破氏が有利と報じられた際、為替、株式市場にはネガティブなインパクトを与える可能性がある。

一方、高市早苗経済安全保障担当相は、積極財政派として知られており、安倍元首相が実施した大規模金融緩和政策を指示していたことから、岸田政権路線とは大きく異なる可能性がある。「投資立国日本」に向けた動きがとん挫することは無いと思うが、今しばらくは名前があがっている人の政策や発言などに、関連した銘柄が振らされる展開となりそうだ。日経平均や TOPIX など指数への影響は限定的と見るが、個別銘柄では思惑中心の地合いとなろう。とりわけ防衛・宇宙、半導体関連など国策や自動運転やライドシェアなど規制緩和に関連したテーマは市場も意識しやすい。立候補者の政策などが出そろうのはまだ先になりそうだが、様々な発言から推測する動きは強まるだろう。

■23 日に国内 CPI 発表

今週は、日本では、19 日に 6 月機械受注、21 日に 7 月貿易収支、22 日に週次対外・対内証券投資、23 日に 7 月消費者物価指数（CPI）などが予定している。

海外では、20 日に NZ・7 月貿易収支、中・1 年物／5 年物ローンプライムレート（LPR）、トルコ・中央銀行が政策金利発表、21 日に南ア・7 月 CPI、米・週次原油在庫、7 月連邦公開市場委員会（FOMC）議事録、22 日に仏・8 月製造業購買担当者景気指数（PMI）、欧・8 月ユーロ圏製造業／サービス業 PMI（速報値）、米・週次新規失業保険申請件数、8 月製造業／サービス業／総合 PMI（速報値）、7 月中古住宅販売件数、23 日に 4-6 月期小売売上高、米・7 月新築住宅販売件数などが予定されている。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

グロース市場 250 指数はマド埋めを試す展開、IPO は 3 週間ぶりに 1 社

■戻りを試す展開続くか

今週の新興市場は、投資家心理の改善を受けて戻りを試す展開が続くと考える。急ピッチな上昇に対する利益確定は入りそうだが、もともと売られ過ぎ感が強かったこともあり下値は限定されよう。東証グロース市場250指数は、8月1日から2日にかけて空いたマド（609.71－620.68）が埋まればより反発基調が強まる可能性はある。低位銘柄物色が強まっていたことから売買高の割に売買代金は膨らんでいないが、決算を発表した主力銘柄を中心に売買が活発化しつつあることから売買代金の増加も期待できよう。値動き重視の売買から業績やテーマ重視の投資への変化が見られれば、腰の据わった投資資金も流入しそうだ。

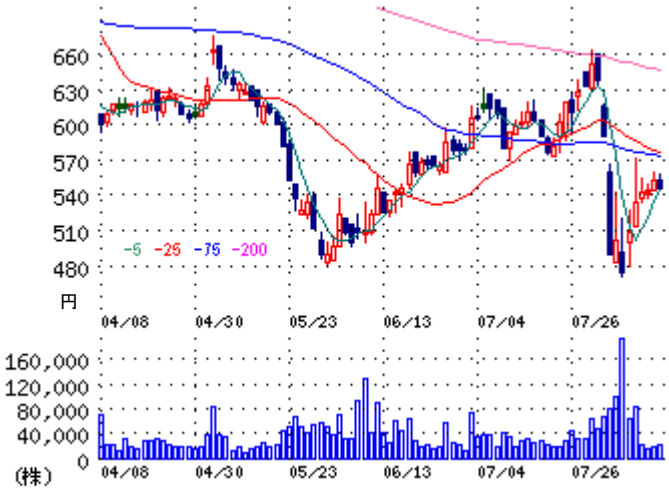
■次の物色の柱としてAI関連に注目、IPOは1社

個別銘柄では、値動きの軽さに着目した超低位銘柄物色がまだ続きそうだが、投資家心理の改善を受けてそろそろ一巡しそうな雰囲気だ。先週はAI CROSS<4476>が決算や株主優待制度を材料に買い優勢となったほか、FRONTEO<2158>も決算が材料視されたことから、AI関連銘柄に資金が向かう可能性はある。戻りが鈍いエッジテクノロジー<4268>、Kudan<4425>、ABEJA<5574>、Laboro.AI<5586>あたりの銘柄は関心を高めておきたい。バイオ関連物色も一服していることから、次の物色の柱としてAI関連を注目する。

なお、今週21日に、ビジネスサポートを手掛けるオプロ<228A>がグロースへ上場する。グロース市場への上場は7月30日のHeartseed<219A>以来となることから、8月14日に上場来高値をつけたタイミー<215A>など直近IPO銘柄を含め関心が向かいやすいと考える。

東証グロース市場 250 指数

エッジテクノロジー<4268>



Kudan<4425>

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

急落前の水準回復で上げ一服、ジャクソンホールで小休止/米国株式相場　今週の見通し

■先週の動き

先週の米国株は上昇。週間ベースの騰落率は、NY ダウが＋2.94%、ナスダックは+5.29%、S&P500 は+3.93%とナスダックの上昇が目立った。イランによるイスラエル報復攻撃が差し迫るなど地政学リスクは高まった一方、7 月生産者物価指数は市場予想を下回ったほか、消費者物価指数でインフレ鈍化継続が確認されたことから、9 月利下げ実施期待を材料に株価は上昇。また、小売売上高や週次新規失業保険者数の結果、消費や労働市場の悪化警戒感が後退したことで、ソフトランディング期待が強まる恰好に。投資家心理の改善を受けて、ナスダックと S&P500 は 7 連騰し、主要 3 指数はともに 7 月 31 日の水準まで値を戻した。投資家心理の不安を示す VIX 指数は、急落前の 7 月 23 日以来となる 14 ポイント台まで低下し、ボラティリティは平常時並みの状況となった。

スポーツ用品メーカーのナイキは、アナリストの投資判断引き上げを材料に上昇。税務書類作成などの専門サービスを提供する H&R ブロックは、2025 年の調整後 1 株利益見通しが予想を上回ったほか、追加自社株買い計画などが好感されて上昇した。ディスカウント小売のウォルマートは、高インフレで消費者が買い得品を求めている兆候が見られると、通期売上高見通しを引き上げたことから上昇。同業のターゲットも連れて買われた。化粧品小売りのアルタ・ビューティは、著名投資家のバフェット氏が率いる保険のバークシャー・ハサウエイによる同社株購入が当局への報告で明らかになり上昇。オンライン小売のアマゾンは、ドローンによる配達の試験を英国で開始したとの報道が好感されて買われた。農機具メーカーのディアは、四半期決算で純利益が予想を上回り上昇した。

一方、製薬会社ファイザーは、ドイツのビオンテックと共同開発中の 1 種類のワクチンで、インフルエンザ、新型コロナウイルス両方からの重症呼吸器疾病を予防することを目的とした mRNA 型ワクチンを巡る最終治験結果が目標に満たなかったことから下落した。化粧品メーカーのエスティローダーは、中国の売り上げ減が引き続き業績に響くとアナリストが投資判断を引下げたことで売られた。電動自動車メーカーのリビアン・オートモーティブは部品不足でアマゾンの配達用電動バンの生産を一時的に停止すると発表したことから下落した。

■今週の見通し

今週の米国株は、主要 3 指数が急落前の 7 月末の水準まで値を戻したことから、いったんは上げ一服となりそうだ。22-24 日の年次経済シンポジウム「ジャクソンホール会議」でのパウエル連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演に関心が向かい、積極的な売買は手控えられよう。今回の注目点は、講演にて 9 月連邦公開市場委員会(FOMC)での利下げ幅が市場予想 0.25%と一致するかである。7 月末から 8 月上旬にかけて急に高まった米景気減速懸念は、その後の経済指標や市場の落着きなどから払しょくされたが、足元の急ピッチな戻りに対する反動などからジャクソンホール会議を材料に様子見姿勢を強めると想定する。VIX 指数は平常時の水準まで低下したことから、市場は落ち着きを取り戻しており、ジャクソンホール会合を巡る過度な警戒感は高まりにくい。パウエル FRB 議長が市場予想通り、9 月 FOMC での 0.25%利下げを明言した場合、市場は安心感を背景に再び景気敏感株を中心に買いを入れると考える。

一方、一足先に下落していた半導体大手エヌビディアは、5 日の取引時間中の安値 90.69 ドルから 30%ほど反発。フィラデルフィア半導体株指数（SOX 指数）も、終値ベースでは 7 月 31 日以来の水準まで戻している。8 月 28 日予定のエヌビディア決算に対する期待感は、2 月や 5 月時点と比べてさほど高まっていない。ただ、期待感が高まっていないなか、想定以上に強い決算となった場合、エヌビディアが 6 月の史上最高値を上回る展開は十分ありえよう。主力銘柄の決算発表が一巡したこともあり、8 月下旬はエヌビディアの動向に関心が集中しやすい。

経済指標では、21 日に週次原油在庫、7 月 FOMC 議事録、22 日に週次新規失業保険申請件数、8 月製造業 PMI（速報値）、サービス業 PMI（速報値）、コンポジット PMI（速報値）、7 月中古住宅販売件数、23 日に 7 月新築住宅販売件数などが予定されている。

主要企業決算は、19 日に 3D システムズ、20 日にキーサイト・テクノロジーズ、21 日にメーシーズ、ターゲット、アジレント、スノーフレイク、ズーム、22 日にダラー・ツリー、バイドゥなどが予定されている。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

為替市場

米ドル・円 予想レンジ	145.00 円 ～ 150.00 円

今週のドル・円はもみ合いか。直近発表の米生産者物価指数（PPI）と米消費者物価指数（CPI）は前回から低下し、インフレ鈍化が顕著になったが、直近の小売売上高は市場予想を上回り、新規失業保険申請件数は減少していることから、7 月雇用統計の悪化を受けた米国経済への減速懸念は後退した。この結果を受けて 9 月以降の大幅利下げを想定したドル売り・円買いは縮小した。また、世界的に株価が持ち直し、目先的にはリスク選好の円売りがやや強まる可能性もある。

一方、8 月 21 日に公表される米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨が早期利下げに前向きな内容だった場合、リスク選好的なドル買いは再び縮小する可能性がある。さらに連邦準備制度理事会（FRB）当局者がジャクソンホール会合で早期の金融緩和に理解を示す見解を表明すれば、年内 2 回以上の利下げを想定したドル売りが増える可能性がある。

【米 FOMC 議事要旨】（8 月 21 日公表予定）

8 月 21 日に FRB は、7 月 30-31 日開催分の FOMC 議事要旨を公表する。市場観測に沿ったハト派スタンスなら早期・大幅利下げ観測により、ドル売り要因に。

【ジャクソンホール会合】（8 月 22-24 日開催予定）

米カンザスシティ連銀がワイオミング州ジャクソンホールで毎年開催する国際的な経済シンポジウム。2024 年は「金融政策の有効性と伝達の再評価」がテーマで、米 9 月利下げが明示されるかが焦点となる。

債券市場

債券先物予想レンジ	144.40 円 ～ 145.10 円
長期国債利回り予想レンジ	0.840 % ～ 0.940 %

■先週の動き

先週（8 月 13 日-16 日）の債券市場で長期債利回りは反発。4-6 月期国内総生産（GDP）速報値は市場予想を上回ったこと、株高円安の相場展開となったことから、中長期債の売りが増えた。7 月米消費者物価指数は市場予想と差のない結果となり、9 月の大幅利下げ観測がやや後退したことも売り材料となったようだ。15 日に行われた国債買い入れオペで応札倍率は前回実績を大幅に上回っており、中長期債の需給の緩みを示唆する結果となったことも嫌気されたようだ。

10 年債利回りは 0.846%近辺で取引を開始し、一時 0.812%近辺まで低下したが、株高円安の相場展開を受け長期債利回りは 0.885%近辺まで上昇し、0.876%近辺でこの週の取引を終えた。

債券先物 9 月限は反落。145 円 22 銭で取引を開始し、14 日の取引で 145 円 60 銭まで買われたが、15 日の夜間取引で 144 円 60 銭まで反落。その後は下げ渋ったが、144 円 87 銭まで反発し、144 円 83 銭でこの週の取引を終えた。

■今週の見通し

今週（8 月 19 日-23 日）の債券市場では、長期金利はやや上昇する可能性がある。日本銀行の利上げをきっかけとした市場の混乱は沈静化し、リスク資産選好の動きが再び強まっており、安全資産の債券にとっては上値の重しとなりそうだ。債券のボラティリティーが上昇した時期を脱し、足元ではリスク選好の流れが続いており、金利は上振れしやすい状態がしばらく続くとみられる。

債券先物 9 月限は伸び悩みか。リスク資産選好の動きが再び強まっており、年内追加利上げの可能性は高まっていないものの、長期債などの利回り水準はやや上昇する可能性が高い。10 年債利回りが 0.85%に接近する局面では利食い売りが増える可能性があり、債券先物は主に 144 円台後半で推移し、伸び悩む状態が続く可能性がある。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

個別物色の手掛かり材料は減少も全般的には順調なリバウンドが継続へ

先週の日経平均は大幅反発。米ハイテク株高や円安反転の動きを背景に、週初から大きく上昇してスタート。その後も底堅い動きが続き、週末には米国の景気減速懸念が後退したことで一段と戻り歩調を強める展開となった。米 CPI の伸び鈍化なども先週は安心材料につながったとみられる。業種別では全面高、非鉄金属や石油などの資源関連株、輸送用機器や電気機器など輸出関連セクター、銀行や保険などの金融関連株が、とりわけ上昇率の上位となっている。

個別では、東邦亜鉛、ネットプロ、アイスタイル、クロスマーケティング、保土谷化学などが決算ポジティブサプライズで大幅上昇。フジクラも前週末ストップ高の地合いを引き継ぎ、決算評価からの上値追いが続いた。円谷フィールズ、サッポロ、朝日インテック、電通グループ、すかいらーくなども決算を好感する動きが優勢になった。KADOKAWA は下方修正発表も当面の悪材料出尽くし感につながる。KOKUSAI は MSCI 新規採用決定で需給インパクト期待の動きが先行。ケアネットやエムアップは自社株買い、霞が関キャピは株主優待制度の変更、APPIER は初の株主還元実施が好感される。パーク 24 は 7 月の月次動向が材料視され、サンケン電気や UACJ はエフィッシモの株式買い増しが伝わる。大手メーカーからの「ドラコ」受注で V テクも週末に買われる。半面、野村マイクロ、カーリット、メルカリ、ライフドリンク、シチズン、QB ネット、サンアスタリスク、プラスアルファ、オイシックスなどは決算発表後に下落。

短期的な上昇ピッチの速さには警戒感も残るが、過度な米景気減速懸念や一段の円高進行リスクなどが低下する中で、目先の株式市場は順調なリバウンドが継続していくものとみられる。今週は 22-24 日のジャクソンホール会合が注目イベントとなるものの、サプライズにつながる可能性は低いとみられ、警戒材料や手控え材料にもつながりにくいだろう。FOMC 議事録などと合わせて、今後の米国の利下げトレンド入り期待がポジティブ視されていく流れが想定される。ほか、週初から民主党大会が開始される。足元ではハリス氏人気が高まる状況となってきており、ハリス氏関連銘柄などを探る動きも今後は表面化してこよう。

先週で決算発表が一巡しており、物色の手掛かり難状況に陥る可能性はあるだろう。今回の決算発表と株式市場の乱高下が重なったこともあり、あらためて好決算銘柄を物色し直す動きなどには注目しておきたい。海外ではエスティローダー、キーサイト、アナログゼバイセズ、ズームなどの決算発表が予定されているが、中ではエスティローダーの決算には警戒感が強まる余地もありそうだ。半導体関連に関しては、28 日に米エヌビディアの決算発表が予定されており、今週後半ぐらいからは様子見ムードが強まってくる可能性も高い。来月の自民党総裁選に向けたは複数の有力候補者の名前が挙がっており、現時点で確実なコンセンサスは出来上がっていない。今後徐々に有力候補者の政策に沿ったテーマ物色も進むとみられるが、金融政策含めて現状から大きな変化はないと考えられよう。

先週動いた銘柄・セクター（東証プライム）

上昇率上位銘柄				下落率上位銘柄				業種別騰落率	
コード	銘柄	終値（円）	騰落率（%）	コード	銘柄	終値（円）	騰落率（%）	上位セクター	騰落率（%）
5707	東邦亜鉛	1,039.0	50.36	6571	キュービーネットホールディングス	1,101.0	-17.90	非鉄金属	14.39
7383	ネットプロテクションズホールディングス	263.0	49.43	4053	Ｓｕｎ　Ａｓｔｅｒｉｓｋ	660.0	-15.71	証券業	13.15
3660	アイスタイル	510.0	37.47	4845	スカラ	492.0	-14.43	保険業	12.42
6250	やまびこ	2,377.0	34.52	4480	メドレー	3,060.0	-12.82	銀行業	11.38
3675	クロス・マーケティンググループ	651.0	33.95	8798	アドバンスクリエイト	940.0	-9.53	輸送用機器	10.77
4933	Ｉ－ｎｅ	1,910.0	32.27	3924	ランドコンピュータ	687.0	-8.40	石油・石炭製品	10.56
5803	フジクラ	3,974.0	30.81	4071	プラスアルファ・コンサルティング	1,617.0	-7.55	電気機器	10.30
6526	ソシオネクスト	3,301.0	27.45	2146	ＵＴグループ	2,750.0	-7.06	下位セクター	騰落率（%）
6323	ローツェ	23,760.0	27.26	5074	テスホールディングス	294.0	-6.96	空運業	1.69
6525	ＫＯＫＵＳＡＩ　ＥＬＥＣＴＲＩＣ	4,175.0	26.90	4275	カーリット	1,140.0	-6.56	陸運業	2.73
9247	ＴＲＥホールディングス	1,496.0	26.78	8051	山善	1,438.0	-6.44	精密機器	3.33
9517	イーレックス	852.0	26.41	3397	トリドールホールディングス	3,560.0	-5.42	建設業	3.63
2170	リンクアンドモチベーション	574.0	26.15	2269	明治ホールディングス	3,448.0	-5.22	倉庫・運輸関連業	3.74
6277	ホソカワミクロン	4,415.0	25.07	3926	オープンドア	671.0	-4.55	繊維業	3.87
6315	ＴＯＷＡ	7,700.0	24.80	4046	大阪ソーダ	8,660.0	-4.42	水産・農林業	3.92

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

戻り一服、25 日線回復で短期目標達成

■25 日線自体は下降継続

先週（8 月 13-16 日）の日経平均株価は 5 週ぶりに上昇した。1 週間の上げ幅は 3037.67 円（前週 884.70 円安）だった。

東証と大阪取引所の投資部門別売買状況では、現物・先物合算で海外投資家は 8 月 1 週（5-9 日）、売り越しを継続し（9740 億円、前週は 1 兆 43 億円）、現物は買い越しに転じた（4554 億円、前週は 5670 億円の売り越し）。

先週の日経平均は 8 月 5 日を底値とする反騰が急速に進行。5 営業日続伸した週末 16 日は 200 日移動平均線（37020.27 円）を上放れ、終値が 25 日線（37941.56 円）を突破した。

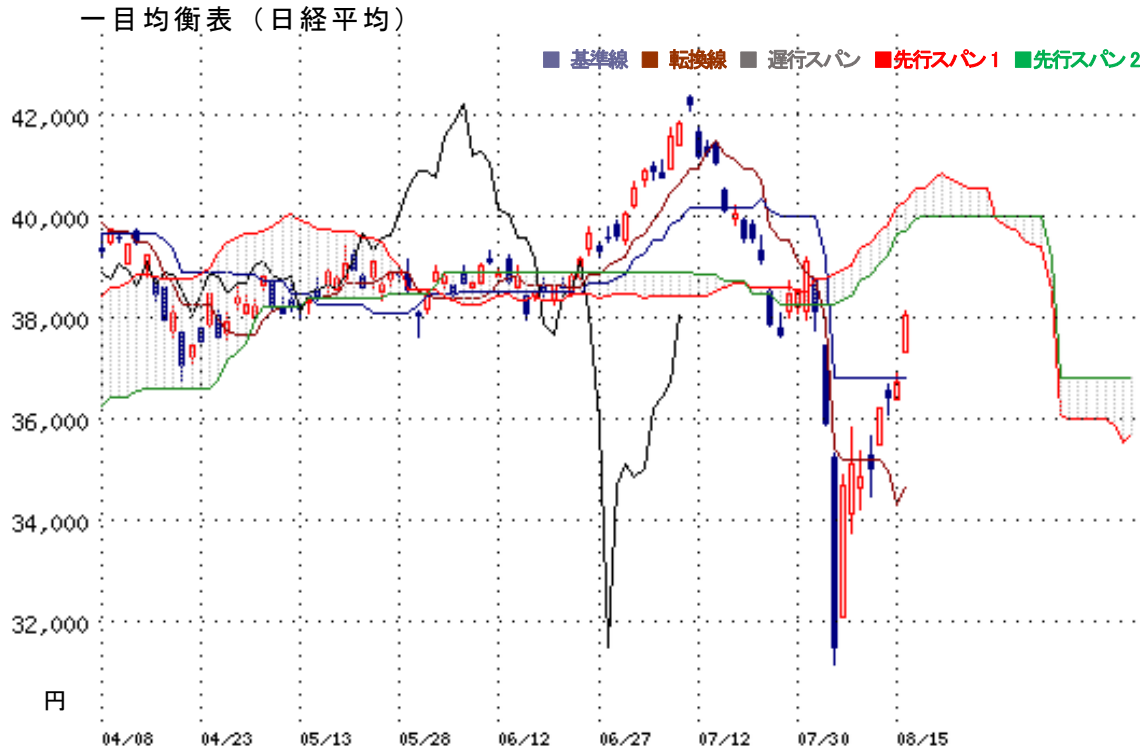
今週は 5 日安値をボトムとする値戻しが一服しそうだ。25 日線突破で短期的な目標達成感が意識されることに加え、25 日線自体は下降を続けて短中期的な下落圧力を窺わせている。5 日安値から 16 日高値まで 6987.43 円高と短期的に急騰したことから反動安圧力も増してきたと推察される。

日経平均の RSI（14 日ベース）が 51.22%、東証プライム市場の騰落レシオ（25 日ベース）が 107.02%と、中立圏中央の 50%、100%をそれぞれ超えていることもあり、売られ過ぎの修正局面は終了した公算が大きい。

ボリンジャーバンドでは、5 日の-3σ割れをボトムに反転して中心線（25 日線）に到達。先週末の 1σ相当の値幅は 2566.44 円（先々週末 9 日は 2770.62 円）と縮小し、-2σから+2σまでの各線が中心線との値幅を縮める 5 本線収束が始まった格好だ。ただ、1σの絶対水準は大きいことから、今週も日々の株価変動幅が上下どちらの方向にも大きくなる可能性に留意したい。

先週末終値が 25 日線を上回る銘柄は日経平均採用 225 銘柄のうち 89 銘柄（先々週末 8 月 2 日は 20 銘柄）、東証プライム全上場銘柄では 37%（同 10%）と増加したが絶対水準は極端に低く、相場がボトム圏にあることを示唆している。

上値では、ともに下向きの 13 週線（38587.97 円）と 26 週線（38810.73 円）の間が抵抗帯として作用しよう。その上では 7 月 31 日高値（39188.37 円）が上値目標として意識される。下値では、200 日線前後が支持帯として期待されるが、200 日線から下振れすると 5 日安値に対する 2 番底模索のリスクに警戒が必要となりそうだ。



本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

アストロスケールホールディングス〈186A〉グロース
スペースデブリ除去など国内外からプロジェクト受注、成長性に期待

■グローバルで技術の最先端を走る

今年 6 月上場。スペースデブリ(宇宙ゴミ)除去や人工衛星寿命の延長等の軌道上サービス事業を展開。同社グループのコア技術である RPO 技術は、EOL、AD、LEX、ISSA と 4 つの軌道上サービスを実現可能にしている。非協力物体における RPO 技術を開発・実証済みの企業は同社のみで、その意味で競合は存在せず、グローバルで技術の最先端を走っており、顧客は国内外の政府が中心である。宇宙関連の支出が多い西側諸国(米国、日本、英国など)において既に拠点を構えており、拠点のある国々で受注実績を有する。直近はエアバスと協業可能性に関する覚書を締結した。

■多くのパイプラインが進行中

24 年 4 月期のプロジェクト収益は前期比 2.6 倍の 46.6 億円、25 年 4 月期の同収益は同 3.8 倍の 180 億円の見通し。契約済／選定済のパイプラインは既に 7 本進む。現状は先行投資の段階

売買単位	100 株
8/16 終値	784 円
目標株価	1000 円
業種	サービス業

だが、事業計画の長期利益率目標では売上総利益目標 30%台半ば、営業利益率目標 20%台半ばを掲げており、全てのパイプラインが着実に進行すると 28 年から 29 年には目標を達成できる見込み。軌道上サービス市場では 33 年までの累積市場規模が 182 億ドルと期待され、中でも同社は目標シェア 50%以上を掲げる。7 月高値水準の 1000 円を一旦の目標株価としたい。

★リスク要因

パイプラインの進行遅延など。

186A:日足

相場全体で買い戻し続く中、800 円台まで値を戻す。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/4連I	651	675.0%	-	-4,895	-	-4,893	-
2022/4連I	910	39.8%	-6,404	-5,563	-	-5,484	-
2023/4連I	1,792	96.9%	-9,665	-9,314	-	-9,264	-
2024/4連I	2,852	59.2%	-11,555	-9,219	-	-9,181	-
2025/4単予	-	-	-	-	-	-	-

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

タウンズ〈197A〉スタンダード

国内対外診断用医薬品最大手の一角、コンボキットの販売好調

■多くの抗原検査キットで国内トップシェア

今年6月上場。創業30年以上となる国内対外診断用医薬品の最大手企業の一社。20年10月に新型コロナウイルス抗原検査キットを発売して以降は、新型コロナウイルス感染症関連製品への売上依存度が5割以上を占めている。22年4月には国内初となる唾液を適用検体種とする新型コロナウイルス抗原検査キット「イムノエース SARS-CoV-2 Saliva」を発売した他、新型コロナとインフルエンザの同時検査が可能なキット(コンボキット)を発売。

■25年6月期も増収増益を計画

8月13日大引け後に24年6月期通期決算を発表。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザが同時期に、また、長期間の流行となったことで、コンボキットの販売が伸長し、従来計画を上振れる実績となった。新型コロナウイルス感染症は指定区分が5類へ移行して以来、世間の関心は薄れているものの、一定の検査需要は維持されているほか、既存の呼吸器感染症の流行水準がコロナ禍前水準へ戻っているといい、売上減少への懸念はやわらいだ形に。25年6月期も増収増益となる通期計画を示しており、堅調な業績推移が期待される。株価は上場来高値突破となる600円を目標とする。

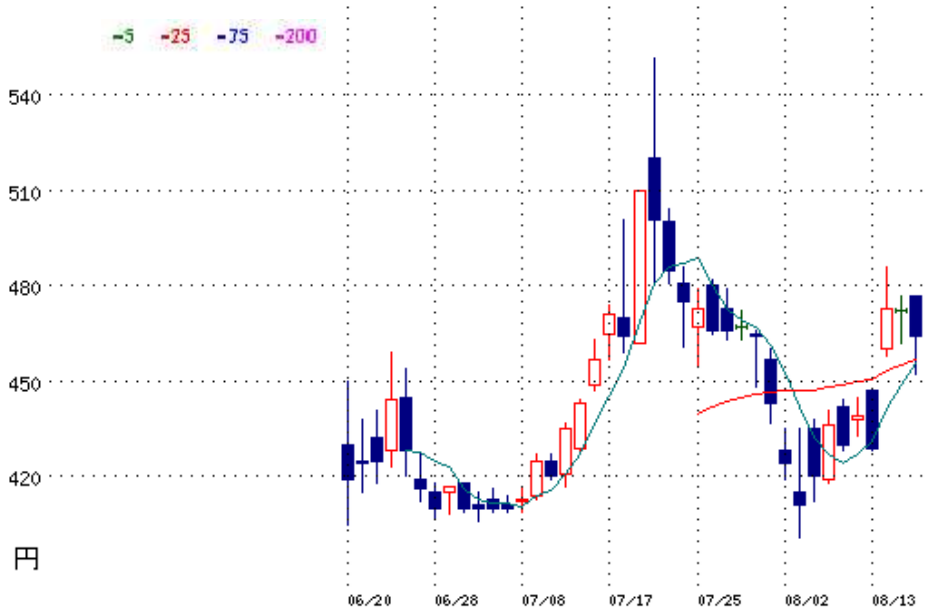
売買単位	100 株
8/16 終値	464 円
目標株価	600 円
業種	医薬品

★リスク要因

競争激化による想定以上の値下げ圧力など。

197A:日足

決算発表後は25日線がおおむねサポートラインに。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/6単	-	-	-	-54	-	-55	-
2022/6単	17,456	-	11,189	11,210	-	4,480	44.81
2023/6単	15,673	-10.2%	4,967	4,953	-55.8%	3,034	30.35
2024/6単	18,434	17.6%	8,030	7,840	58.3%	5,774	57.74
2025/6単予	19,273	4.6%	8,308	8,316	6.1%	6,019	59.79

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

ビックカメラ〈3048〉プライム

都市型・駅前・大型の家電量販店、猛暑やパリ五輪も追い風

■傘下にコジマや日本BS放送、ソフマップなど

都市型・駅前・大型を中心に出店する家電量販店。ビックカメラ店舗数は 43 店(23 年 10 月時点)。子会社には家電量販店 141 店(24 年 4 月時点)を展開するコジマ<7513>、BS デジタル放送事業を行う日本 BS 放送<9414>、パソコン・デジタル機器のリユースおよびリサイクルを行うソフマップなど。ソフマップは、イベントやライブ配信で「アキバ・カルチャー」を世界に発信し、また、e スポーツに注力している。24 年 8 月期第 3 四半期累計期間(23 年 9 月-24 年 5 月)の営業利益は前年同期比 76.1%増の 191.94 億円。インバウンド売上やコジマ、携帯キャリアショップ事業などが好調に推移し、利益寄与した。

■7月に通期計画の上方修正と増配を発表

7 月 12 日に通期計画の上方修正と期末配当の増配を発表。24 年 8 月期は営業利益が前期比 58.3%増の 225 億円を見込む。

売買単位	100 株
8/16 終値	1631 円
目標株価	1808 円
業種	小売業

期末配当は従来予想から 3 円増配し、1 株あたり 15 円とした。猛暑によるエアコン需要やパリ五輪観戦のテレビ需要などが堅調で、第 4 四半期(6-8 月)も売上高は堅調に推移しているもよう。好業績を映し株価は堅調だ。年初来高値 1808 円を目標株価としたい。

★リスク要因

池袋での同業他社との競争激化など。

3048:日足

25 日線突破後の株価上昇に期待。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2020/8連	847,905	-5.2%	12,066	14,690	-43.2%	5,450	30.98
2021/8連	834,060	-1.6%	18,217	21,629	47.2%	8,761	49.80
2022/8連	792,368	-5.0%	17,863	20,808	-3.8%	5,765	33.22
2023/8連	815,560	2.9%	14,215	16,566	-20.4%	2,936	17.16
2024/8連予	916,000	12.3%	22,500	24,600	48.5%	10,000	58.42

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

日本触媒〈4114〉プライム

インドネシア子会社において SAP 製造設備を増設

■紙おむつに使うSAPの需要が堅調

大手化学メーカーであり、アクリル酸、アクリル酸エステル、高吸水性樹脂(SAP)などを製造、販売する。インドなど新興国向けに、塗料や接着剤の原料となるアクリル酸エステルの販売が伸びるほか、紙おむつに使う SAP など輸出品の売り上げが膨らむとして、8 月 7 日には 25 年 3 月期通期計画の上方修正を発表。営業利益は従来予想の 150 億円から 20.0%増の 180 億円とした。上期における利益面の上振れを見込んだものであり、下期の予想については従来の計画を据え置いている。なお、8 月 2 日にはインドネシア子会社において、SAP 製造設備を増設し、既存能力の年産 9 万 t と合わせて年産 14 万 t の生産能力にすることを決議した。

売買単位	100 株
8/16 終値	1605.5 円
目標株価	1760 円
業種	化学

■目標株価は 19 年 11 月の高値水準

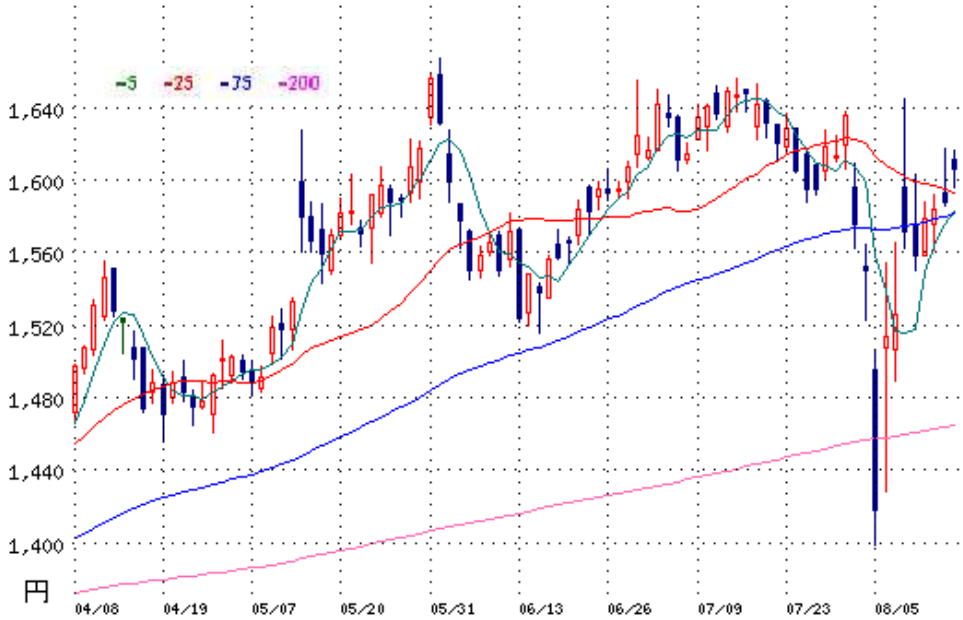
株価は 8 月 5 日に 1398.5 円まで売られ、その後のリバウンドにより 25 日、75 日線を突破してきた。週間形状では長い下ヒゲを残す形での 52 週線割れからのリバウンドにより、13 週線を突破してきた。6 月 3 日の年初来高値 1668 円が射程に入るなか、目標株価は 19 年 11 月の高値水準である 1760 円とする。

★リスク要因

為替の急激な円高基調。

4114:日足

25 日線、75 日線を突破。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3連I	273,163	-9.6%	-15,921	-12,926	-	-10,899	-
2022/3連I	369,293	35.2%	29,062	33,675	-	23,720	594.86
2023/3連I	419,568	13.6%	23,528	26,175	-22.3%	19,392	488.29
2024/3連I	392,009	-6.6%	16,562	15,744	-39.9%	11,008	281.92
2025/3連I予	415,000	5.9%	18,000	20,500	30.2%	15,000	98.12

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

日本ゼオン〈4205〉プライム

合成ゴムや高機能樹脂などを手掛ける、第 1 四半期営業利益は前年同期比 47.9%増

■足元でモバイル端末向け需要など回復

主要となるエラストマー素材事業は、売上高全体の 6 割弱を占め、自動車タイヤなどに使われる合成ゴム、手袋や紙加工などに使われる合成ラテックス、粘着テープや接着剤に使われる石油樹脂など化成品が主要製品となっている。高機能材料事業では、高機能樹脂・部材や電子材料、電池材料、合成香料、医療用デバイスなどを手掛ける。25 年 3 月期第 1 四半期(24 年 4-6 月)は、売上高が 1061.05 億円(前年同期比 15.4%増)、営業利益は 90.41 億円(同 47.9%増)で着地。高機能材料事業で、モバイル端末向け需要の回復や能登半島地震後の生産再開もあり、光学フィルムの出荷などが増え、収益寄与した。

■上期業績予想を上方修正

市況上昇や高機能材料の需要回復を織り込み、第 1 四半期決算発表時に上期業績予想を上方修正した。売上高は従来予想比 6%増、営業利益は同 36%増とした。一方、通期計画では上期の反動による下期の業績鈍化を織り込み据え置いており、現段階では保守的に見積もっているもよう。株価は全体波乱相場の影響もあり 8 月に急落。戻りがやや鈍いが、前述のように業績は好調だ。まずは 7 月高値 1411 円を目標としたい。

売買単位	100 株
8/16 終値	1210.5 円
目標株価	1411 円
業種	化学

★リスク要因

円相場の乱高下など。

4205:日足

25 日線を突破し、200 日線・75 日線を捉えたいところ。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3連	301,961	-6.2%	33,408	38,668	34.5%	27,716	126.74
2022/3連	361,730	19.8%	44,432	49,468	27.9%	33,413	153.22
2023/3連	388,614	7.4%	27,179	31,393	-36.5%	10,569	49.94
2024/3連	382,279	-1.6%	20,500	26,906	-14.3%	31,101	147.19
2025/3連予	397,000	3.9%	26,500	27,500	2.2%	17,500	84.13

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

オービックビジネスコンサルタント〈4733〉プライム
「奉行シリーズ」が主力、歌舞伎役者のテレビ CM でブランドイメージ浸透

■クラウド移行施策が奏功

会計税務、人事労務、販売管理業務を支援する基幹業務システムの「奉行クラウド」、「奉行V ERPクラウド」、「奉行11シリーズ」と、周辺業務向けの「奉行クラウド Edge」が製品・サービスの 2 本柱。「奉行シリーズ」というブランドと歌舞伎役者の CM によりブランドイメージが浸透し、国内企業累計 72 万社が導入している(23 年 9 月現在)。オービック<4684>の持分法適用関連会社で、オービックがシステムインテグレーション事業を行う一方、同社はパッケージソフト事業を担う。25 年 3 月期第 1 四半期(24 年 4-6 月)は、売上高 112.26 億円(前年同期比 22.8%増)、営業利益は 51.81 億円(同 38.5%増)で着地。クラウドサービスへの移行施策が好業績につながった。

■中堅企業に向けたアプローチを開始

通期では、売上高 480 億円(前期比 14.4%増)、営業利益 215 億円(同 14.7%増)を見込む。主力の奉行シリーズは、「奉行 V ERP クラウド」の本格的な拡販に向け機能を充実することに注力し、中堅企業に向けたアプローチを開始。また、「奉行クラウド Edge」のさらなる強化を図り、安定した収益基盤の充実を図る計画。株価はまず 7 月高値 7448 円を目標としたい。

売買単位	100 株
8/16 終値	6234 円
目標株価	7448 円
業種	情報・通信業

★リスク要因

相場不安定化による乱高下など。

4733:日足

8 月 5 日の急落からは着々と下値を切り上げる展開。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3単	29,252	-2.7%	12,942	13,934	-0.7%	9,670	128.65
2022/3単	34,757	18.8%	16,357	17,157	23.1%	11,811	157.13
2023/3単	33,704	-3.0%	14,709	15,834	-7.7%	11,033	146.78
2024/3単	41,954	24.5%	18,748	19,869	25.5%	13,841	184.13
2025/3単予	48,000	14.4%	21,500	22,400	12.7%	15,540	206.72

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

オリックス〈8591〉プライム
インバウンド回復で航空機リースの事業成長を見込む

■第1四半期はインバウンドの回復が追い風

リースをはじめ、不動産、銀行、クレジット、事業投資、環境エネルギー投資など多角的に事業展開する金融サービス会社。8月5日に発表した25年3月期第1四半期(24年4-6月)は、営業収益が前年同期比4.6%増の7081.39億円、営業利益は同3.9%増の862.66億円だった。インバウンド(訪日客)の回復で輸送機器や不動産運営、空港コンセッションの収益が伸びた。また、旅客の増加と機体の需給ひっ迫で機体価格が上がっており、航空機リースの事業成長を見込んでいる。

■06年4月高値を意識

株価は7月17日に付けた3788円を高値に調整が強まり、8月5日には200日線を割り込み、一時2644.5円まで急落した。その後は強いリバウンドをみせるなかで200日線を突破し、週末には75日線の攻防から25日線を捉えてきた。PBR(株価純資産倍率)は0.98倍と1倍を割り込むなど、指標面での割安感が強まっていることもあり、一段のリバウンドに期待したい。7月高値が射程に入るなか、06年4月高値3815円を意識したトレンド形成が見込まれる。そのため、目標株価を06年4月高値水準の3820円とする。

売買単位	100 株
8/16 終値	3492 円
目標株価	3820 円
業種	その他金融業

★リスク要因

大阪でのIR事業の頓挫。

8591:日足

75日線の攻防から25日線を捉える。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3連S	2,292,708	0.5%	258,814	287,561	-30.3%	192,384	155.54
2022/3連S	2,520,365	9.9%	302,083	504,876	75.6%	312,135	259.37
2023/3連S	2,663,659	5.7%	335,923	392,178	-22.3%	290,340	245.98
2024/3連S	2,814,361	5.7%	360,713	469,975	19.8%	346,132	298.55
2025/3連S予	-	-	-	-	-	390,000	-

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

ノバレーゼ〈9160〉スタンダード

上期としては売上過去最高値を更新、第 4 四半期には新規開業施設が本格稼働

■独自のマーケットポジションを形成

ゲストハウス(婚礼施設)を中心にドレスショップやレストランを展開するブライダル事業が主力。なかでも結婚式に関わるすべてのプロデュース行う婚礼プロデュース部門が売上収益全体の 5 割弱を占める。地方都市圏を中心とした店舗展開と、シンプルで洗練されたデザインの差別化された施設により、独自のマーケットポジションを築いている。また、サービス内製化による高い収益性などに強みをもっている。

■4Qに新規開業施設が本格稼働

8 月 14 日に 24 年 12 月期中間決算を発表。上期(24 年 1-6 月)は、売上収益が前年同期比 2.7%増となる 84.71 億円と上期としては過去最高値を更新。特に一般飲食・レストラン特化型が好調だった。一方、新店開業・集客力向上に向けた投資を実行したため、税引前損失は0.26 億円と赤字転落となった。ただ、結婚式は春と秋に多くなる傾向があり、新規開業施設が本格稼働する第 4 四半期(10-12 月)で売上伸長が期待される。株価は 6 月 21 日の TKP<3479>との資本業務提携を発表翌日に年初来高値を更新。ここのところ相場の乱高下で一旦仕切り直しとはなったものの、再び年初来高値更新が射程圏内に入ってきたとみられる。目標株価は 6 月高値突破となる 350 円とする。

売買単位	100 株
8/16 終値	310 円
目標株価	350 円
業種	サービス業

★リスク要因

訪日外国人の減少など。

9160:日足

先週は 25 日線・200 日線突破を試す攻防。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2020/12連I	7,334	-57.9%	-	-4,326	-	-2,947	-
2021/12連I	11,191	52.6%	822	539	-	374	2,992.21
2022/12連I	17,222	53.9%	2,775	2,485	361.0%	1,656	13,254.00
2023/12連I	18,265	6.1%	1,539	1,230	-50.5%	942	37.69
2024/12連I予	19,576	7.2%	1,710	1,361	10.7%	943	37.72

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

東京エレクトロン　プライム〈8035〉／堅調決算や米半導体株高でリバウンドへ

先週は買い先行の展開。その前の週末は好決算受けて買い先行となった後に伸び悩む展開となったが、地合いの改善もあってストレートに決算見直しの動きが強まった。第1四半期決算では、営業利益は1657億円で前年同期比2.0倍となり、通期予想は従来の5820億円から6270億円、前期比37.4%増に上方修正している。実績値、見通しともにコンセンサスを上回る水準となっている。

景気減速懸念の後退で米SOX指数が4.9%の大幅上昇となり、週末も連れ高基調を強める動きとなっている。目先はジャクソンホール会合などを受けて米利下げ期待の高まりが予想され、堅調な動きが続くと見込まれる。ただ、焦点となるのは28日の米エヌビディアの決算発表となる。決算発表後のエヌビディアの株価動向を見極めるべく、週後半にかけては様子見ムードの強まる局面も想定。

フジクラ　プライム〈5803〉／決算サプライズ強く株価は連日の急騰へ

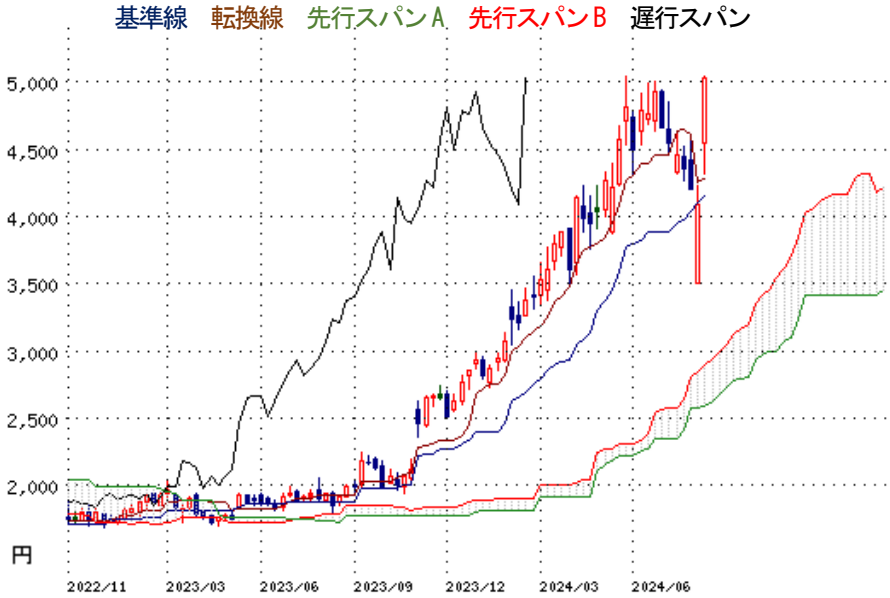
先週は連日で大幅上昇の展開に。8日に決算を発表しており、9日にはストップ高比例配分となっていたが、週明け以降も一段と上値追いの動きと強めた。第1四半期営業利益は245億円で前年同期比94.5%増となり、上半期予想は従来の300億円から490億円に、通期では700億円から890億円、前期比28.1%増に上方修正している。通期の市場コンセンサスは740億円程度であった。年間配当金も従来計画の55円から65円に引き上げ。

DC向けの多芯光コネクタや光配線材が牽引役になって情報通信の上振れ幅が大きくなっているもよう。AIサーバーでのコネクタ使用量は通常のデータセンターの5倍に膨らむもようであり、今後も牽引役としての期待は高まる状況だろう。ただし、直近5営業日での上昇率は57%もの水準に達しており、7月高値水準レベルでの押し目買いが妙味となる。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

SWCC　プライム〈5805〉

週足ベースの一目均衡表。転換線が7月4週をピークに下降し、スピード調整色を強めていた。しかし、先々週に節目の3500円を安値にローソク足が「陽の寄り付き坊主」を示現したのに続き、先週は転換線が上向きに転じてスピード調整完了の形状となった。大勢では三役好転下の強気形状をキープする中で上向きの基準線が上昇トレンド維持を示唆。先週高値5050円が5月高値を10円上回ったこともあり、上値追い局面の再開が予想される。



丸大食品　プライム〈2288〉

日足ベースのローソク足。先週は8月13日に25日移動平均線が上向きに転換。週末16日は上ヒゲのない「陽の大引け坊主」を示現して強い買い意欲を窺わせるとともに、5日線が25日線を下から上に抜いて短期ゴールデンクロスを形成し、強い上昇トレンド発生を示唆した。6月27日と7月31日の高値1759円で形成するダブルトップを突破して上値を拡張する展開が期待できよう。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

テーマ別分析：JPX400 など新規採用銘柄に注目度が増す期待

■フジクラやキヤノンなど 44 銘柄を新規に追加

日本取引所グループの JPX 総研は、日本経済新聞社と共同で算出を行っている「JPX 日経インデックス 400」（JPX400）と「JPX 日経中小型株指数」（JPX 中小型株指数）構成銘柄の定期入替を 8 月 7 日に発表した。

JPX 400 はフジクラ<5803>やキヤノン<7751>など 44 銘柄を新規に追加、ニデック<6594>やソフトバンクグループ<9984>など 41 銘柄を除外、JPX 中小型株指数はラーメンチェーン運営の力の源ホールディングス<3561>やギフトホールディングス<9279>を含む 50 銘柄を新規に追加、45 銘柄の除外をそれぞれ発表した。入替は 8 月 30 日に実施する。

新規の構成銘柄にはインデックス運用による買い需要も期待される。新規採用銘柄の中でも好業績、注目材料を抱える銘柄をピックアップした。

■主な「JPX 日経インデックス 400、JPX 中小型株指数新規採用」関連銘柄

コード	銘柄	市場	8/16 株価（円）	概要
166A	タスキホールディングス	ｸﾞﾛｰｽ	638	JPX中小型採用、M&A寄与し24年9月期増額
1662	石油資源開発	ﾌﾟﾗｲﾑ	5820	JPX400採用、25年3月期利益予想増額
2160	ジーエヌアイグループ	ｸﾞﾛｰｽ	1850	JPX中小型採用、米中に拠点持つ創薬ベンチャー
2726	パルグループホールディングス	ﾌﾟﾗｲﾑ	2068	JPX400採用、雑貨事業の3コインズ好調続く
2767	円谷フィールズホールディングス	ﾌﾟﾗｲﾑ	1812	JPX中小型採用、知財ビジネス国内外で好調
3093	トレジャー・ファクトリー	ﾌﾟﾗｲﾑ	1852	JPX中小型採用、25年2月期業績、配当増額
4194	ビジョナル	ﾌﾟﾗｲﾑ	8550	JPX400採用、24年7月期連続最高益見込み
4680	ラウンドワン	ﾌﾟﾗｲﾑ	780	JPX400採用、2025年夏から北米で外食事業
5406	神戸製鋼所	ﾌﾟﾗｲﾑ	1750.5	JPX400採用、PBR1倍割れ、配当利回り5%超
5803	フジクラ	ﾌﾟﾗｲﾑ	3974	JPX400採用、25年3月期業績、配当予想増額
6254	野村マイクロ・サイエンス	ﾌﾟﾗｲﾑ	3100	JPX400採用、半導体向け超純水装置大手
6315	TOWA	ﾌﾟﾗｲﾑ	7700	JPX400採用、4-6月期決算好スタート
6632	JVCケンウッド	ﾌﾟﾗｲﾑ	1148	JPX400採用、4-6月期決算好スタート
7751	キヤノン	ﾌﾟﾗｲﾑ	4723	JPX400採用、24年12月期増額、自社株買い
7936	アシックス	ﾌﾟﾗｲﾑ	2622	JPX400採用、5月にはMSCIにも新規採用
8136	サンリオ	ﾌﾟﾗｲﾑ	3813	JPX400採用、25年3月期業績と配当予想を増額
9279	ギフトホールディングス	ﾌﾟﾗｲﾑ	2541	JPX中小型採用、月次既存店売上の好調続く
9508	九州電力	ﾌﾟﾗｲﾑ	1513	JPX400採用、電力会社では4社目の採用に

出所：フィスコ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

決算発表一巡のタイミングで改めて好決算発表銘柄に注目

■4-6 月期の決算発表が一巡

先週で 4-6 月期の決算発表が終了している。今回の決算発表のタイミングでは株式市場の乱高下もあって、ストレートに好業績などが反映されていない銘柄も多いとみられる。決算発表が一巡したタイミングで改めて、好決算銘柄を見直す動きも強まると予想される。増益基調が続く銘柄の中で、売上高、営業利益ともに第 1 四半期の進捗率が高い銘柄をスクリーニングしている。

スクリーニング要件としては、①3 月期本決算、②前期実績、今期予想ともに営業増益、③第 1 四半期売上高進捗率が 28%以上、④第 1 四半期営業利益進捗率が 40%以上。

■第 1 四半期の業績進捗率が高い銘柄

コード	銘柄	市場	8/16株価（円）	時価総額（億円）	進捗率（%）	株価騰落率（%）	予想1株利益（円）
2998	クリアル	グロース	4,030.0	232.7	62.30	-5.51	145.12
4112	保土谷化学工業	プライム	5,490.0	461.9	63.20	2.62	340.27
4792	山田コンサルティングG	プライム	2,383.0	474.1	53.00	3.61	150.56
6016	ジャパンエンジンコーポ	スタンダード	14,890.0	416.9	44.90	-18.14	425.82
6419	マースグループHD	プライム	3,525.0	800.9	41.80	-6.75	476.19
6430	ダイコク電機	プライム	3,265.0	482.7	45.00	-15.96	575.00
7893	プロネクサス	プライム	1,249.0	346.2	129.30	-4.51	103.88
8115	ムーンバット	スタンダード	804.0	38.4	120.90	-14.19	77.60
8119	三栄コーポレーション	スタンダード	3,230.0	82.5	55.00	14.09	381.02
8704	トレイダーズHD	スタンダード	894.0	264.1	41.10	9.02	121.88
8877	エスリード	プライム	4,355.0	673.5	58.80	-9.37	563.85

（注）株価騰落率は1カ月前比
（注）進捗率は第1四半期営業利益の通期計画比
出所：フィスコアプリより作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

急落後も積極的な逆張り個人投資家

■個人投資家の物色先は、軟調相場でも下支え効果が強い可能性

一般的に個人投資家は、中長期的な投資ホライゾンのもと、相場が下落すると買いに積極化する「逆張り」傾向があり、株式市場下落時の下支え効果としても働くとみられている。SBI 証券では、8 月 5 日が新 NISA 開始後初の大幅下落となったことから、警戒感が高いとはいえ個人投資家の恰好の押し目買い相場になったと考え、SBI 証券インターネット取引の出来高上位 30 銘柄の集計をもとに、7 月 11 日以降における個人投資家の物色動向と連日買われた銘柄の分析を行っている。今回の分析では、8 月 5 日の大幅下落以降は、業種内で先行したモーメンタム銘柄（インダストリーモーメンタム）、高「財務レバレッジ」、インフレに対する正の感応度（マクロ感応度）等が物色の特徴になったと考察している。また、急落以降の相場で下落幅と想定回復幅の大きい個別株を考えると、これまでの人気化していた割安株は一服し、個人投資家は中小型成長株を含む個別性の強い株式に物色の矛先を変えていると推察している。

「8/6～9 の合計売買出来高上位 30 銘柄に 2 日以上該当した銘柄リスト」（SBI 証券）

主要取引所	コード	企業名	東証33業種	時価総額（百万円）	5日間出来高（8/5～8/9）	売買出来高上位30銘柄該当日数
東証スタンダード	8918	ランド	不動産業	11,861	305,798,676	5
東証プライム	6740	ジャパンディスプレイ	電気機器	65,967	224,026,365	5
東証プライム	9432	日本電信電話	情報・通信業	13,193,181	186,887,944	5
東証プライム	7011	三菱重工業	機械	5,836,411	107,274,682	5
東証プライム	8306	三菱UFJFG	銀行業	17,402,341	101,988,064	5
東証スタンダード	6993	大黒屋HD	小売業	4,448	60,264,445	5
東証グロース	4597	ソレイジア・ファーマ	医薬品	9,812	51,559,619	5
東証プライム	9501	東京電力HD	電気・ガス業	1,010,171	37,622,211	5
東証プライム	7203	トヨタ自動車	輸送用機器	38,658,232	35,617,157	5
東証グロース	4564	オンコセラピー・サイエンス	医薬品	12,987	31,429,702	5
東証プライム	4755	楽天G	サービス業	1,675,167	25,682,912	5
東証プライム	7201	日産自動車	輸送用機器	1,603,666	24,766,968	5
東証プライム	7003	三井E&S	機械	116,295	24,278,278	5
東証プライム	9107	川崎汽船	海運業	1,289,579	20,636,237	5
東証プライム	9984	ソフトバンクG	情報・通信業	11,154,324	16,273,827	5
東証プライム	6526	ソシオネクスト	電気機器	463,868	15,185,464	5
東証プライム	6857	アドバンテスト	電気機器	4,437,490	13,905,280	5
東証グロース	4883	モダリス	医薬品	4,473	-	4
東証プライム	8316	三井住友FG	銀行業	11,817,483	-	4
東証プライム	4005	住友化学	化学	715,255	-	4
東証プライム	7267	本田技研工業	輸送用機器	7,497,600	-	4
東証プライム	8411	みずほFG	銀行業	7,057,845	-	4
東証スタンダード	7014	名村造船所	輸送用機器	119,413	-	3
東証プライム	6920	レーザーテック	電気機器	2,538,190	-	3
東証プライム	5411	JFEHD	鉄鋼	1,178,165	-	2
東証プライム	3436	SUMCO	金属製品	547,499	-	2
東証プライム	2914	日本たばこ産業	食料品	7,840,000	-	2
東証プライム	8058	三菱商事	卸売業	11,665,729	-	2

注:SBI 証券内インターネット取引の出来高上位 30 銘柄から、観測期間は日次
　日経平均株価指数を原資産とするブル・ベア型の投資信託受益証券は分析対象外
出所:MSCI 社 BARRA 日本株モデル TPE4 より SBI 証券作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

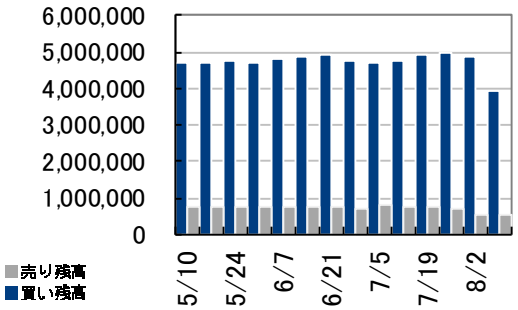
大幅な相場変動を受けて信用買い残が急減

8 月 9 日時点の 2 市場信用残高は、買い残高が 9086 億円減の 3 兆 9634 億円、売り残高が 289 億円減の 5297 億円。買い残高が 2 週連続の減少、売り残高は 5 週連続での減少となった。また、買い方の評価損益率は-13.69%から-14.16%、売り方の評価損益率は+6.68%から+8.22%に。なお、信用倍率は 8.72 倍から 7.48 倍。

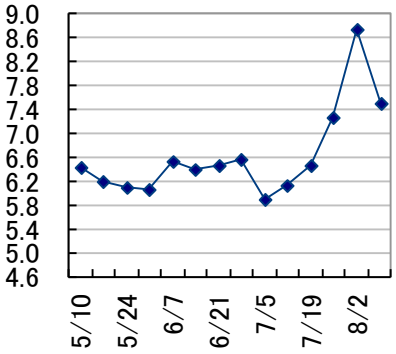
この週（8 月 5 日―9 日）の日経平均は前週末終値比 884.70 円安の 35025.00 円。8 月 5 日の東京市場では、米国株の大幅下落や為替の急激な円高推移を受けて、日経平均が下げ幅を一気に拡大。各種先物でサーキットブレーカーが発動し、信用取引に絡んだ現物株の投げ売りが加速。為替も 1 ドル＝141 円台まで円高が急加速したことも要因に。この日の終値は前週末比 4451.28 円安と、ブラックマンデー翌日（1987 年 10 月 20 日）の下落幅 3836.48 円を超え、過去最大となった。なお、翌 6 日は急反発し、前日比 3217.04 円高と過去最大の上昇幅に。7 日には内田日本銀行副総裁が「タカ派色」を打ち消す発言をしたことで市場はやや落ち着きを取り戻した。

個別では、キーエンス<6861>の信用倍率は 8.16 倍となり、前週の 10.66 倍から取り組みが改善した。日経平均株価が過去最大の下落となった 5 日の急落局面で 1 月 4 日以来の年初来安値を更新しており、買い方の換金売りに対して新規売りが入ったとみられる。ただし、翌 6 日には一時ストップ高で急落部分を一気に吸収しており、改めて新規の資金が流入しているだろう。三井物<8031>の信用倍率は前週から改善したものの、取り組み妙味はない。今回の急落局面で買い方の換金売りによる改善であるが、依然として買い残高は高水準であるため、戻り待ち狙いの売り圧力は強そうである。パナソニック HD<6752>についても、買い方の換金売りによって信用倍率は改善したが、買い残高は高水準であり、しばらくは需給調整が必要だろう。

信用残高 金額ベース　単位：百万円



信用倍率（倍）



取組みが改善した銘柄

コード	市場	銘柄	8/16終値（円）	信用買残（8/9:株）	信用売残（8/9:株）	信用倍率（8/9:倍）	信用買残（8/2:株）	信用売残（8/2:株）	信用倍率（8/2:倍）
6753	プライム	シャープ	906.5	2,093,800	1,581,800	1.32	2,662,800	1,544,400	1.72
6861	プライム	キーエンス	66,340.0	275,900	33,800	8.16	308,000	28,900	10.66
6323	プライム	ローツェ	23,760.0	811,700	44,400	18.28	991,900	42,900	23.12
6266	プライム	タツモ	3,265.0	692,800	543,600	1.27	858,500	539,500	1.59
8031	プライム	三井物	3,183.0	5,684,400	354,300	16.04	7,058,900	353,800	19.95
6752	プライム	パナソニックH	1,142.0	6,362,900	953,300	6.67	7,789,000	939,900	8.29
3465	プライム	ケイアイスター	3,460.0	180,700	368,700	0.49	216,700	356,200	0.61
6254	プライム	野村マイクロ	3,100.0	2,474,900	1,340,000	1.85	3,089,000	1,348,800	2.29
3222	スタンダード	U. S. M. H	881.0	347,500	1,281,300	0.27	407,400	1,223,300	0.33
8136	プライム	サンリオ	3,813.0	560,800	382,400	1.47	510,300	282,000	1.81
7342	プライム	ウェルスナビ	1,220.0	3,362,600	1,553,000	2.17	4,165,000	1,560,000	2.67
8001	プライム	伊藤忠	7,167.0	1,232,000	206,100	5.98	1,312,100	179,400	7.31
9842	プライム	アークランズ	1,751.0	257,800	2,377,000	0.11	260,500	1,939,600	0.13
3778	プライム	さくら	2,940.0	2,416,000	2,063,200	1.17	2,892,500	2,028,300	1.43
4661	プライム	OLC	3,953.0	4,739,800	540,500	8.77	6,307,700	598,100	10.55

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

コラム：自民党総裁選の行方

来月行われる自民党総裁選への不出馬を決めた岸田文雄首相の後継人事に、市場の関心が高まっています。首相選びは日銀の金融正常化との関連で、現時点では株安・円高要因。今後の候補者選定に向け、災害に強い政権を発足できるかが焦点になりそうです。

岸田首相は 14 日午前に記者会見し、来月予定される党総裁選に出馬せず、総裁としての任期満了に伴い退陣する意向を表明しました。先に日銀の金融正常化に言及した河野太郎デジタル相と茂木敏充幹事長が後継候補として名前が挙がっており株式市場では短期的にマイナスへ転じる場面がありました。外為市場でも円買いが強まり、ドル・円は 147 円半ばから 146 円付近に 1 円超も値を下げています。

自民党筋によると、所属議員の多くは、派閥内の裏金問題で不信を招いたため、次期総選挙では大惨敗し下野が避けられないと考えています。長老議員を中心とした最近の会合では今後の党運営について協議を重ねたものの、それぞれの選挙対策に余念がなく岸田氏に退陣を促す方針に関してはまとまらなかったといいます。そうしたなかで岸田氏が自ら不出馬を切り出したことは、いわば「サプライズ」でした。

総裁選には他に、石破茂元幹事長、林芳正官房長官、上川陽子外相、高市早苗経済安全保障相などが出馬に前向きと考えられています。世代交代を何よりも嫌う永田町では、60 歳代前半の河野氏と高市氏では国会議員票を集めるのが困難とみられます。また、茂木氏は党重鎮の支援が不可欠であるほか、次期総選挙を念頭に入れると、議員票、党員票とも取りまとめに苦しみそうです。

一方、林氏と上川氏は宏池会（岸田派）所属で、官房長官の林氏が出馬する場合には、上川氏は立候補しない公算。ただ、林氏も人気は決して高くなく「選挙の顔」にはなりにくいでしょう。そのため、支持率調査では上位を維持している石破氏が最も妥当とのムードになるかもしれません。同氏は党主流派と距離を置いてきたため、総選挙では有権者に潔白さをアピールできるメリットもありそうです。

厳しい戦いが予想される次期総選挙を乗り切るには、上川氏を「初の女性首相」としてイメージを刷新する戦略もあります。宮崎県で今月発生したマグニチュード 7 超の地震で「南海トラフ」発生の可能性が取りざたされました。株価暴落後、当面は持ち直しが期待されるものの、震災は目下最大のリスク要因。次の首相が不測の事態に躊躇なく対応できるタイプかどうかを、国内外の投資家は見定めようとしています。

※あくまでも筆者の個人的な見解であり、弊社の見解を代表するものではありません。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

1	スケジュール	経済カレンダー	2-4
		決算カレンダー	5
2	レーティング	格上げ・買い推奨	6
		格下げ・売り推奨	7
3	投資主体別売買動向	総括コメント	8
		市場別データ	9
4	新規上場銘柄	結果とスケジュール	10
5	一目均衡表雲抜け銘柄	雲上抜け銘柄（プライム）	11-12
		雲下抜け銘柄（プライム）	13

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

8 月 19 日～8 月 23 日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
8月19日	月	08:50	コア機械受注(6月)
		17:00	ブ・FIPE消費者物価指数(先週)
		20:25	ブ・週次景気動向調査
		23:00	米・景気先行指数(7月)
		27:00	ブ・貿易収支(先週)
			米・民主党全国大会(22日まで)
			米韓合同軍事演習(29日まで)
8月20日	火	07:45	NZ・貿易収支(7月)
		10:00	中・1年物ローンプライムレート(LPR)
		10:00	中・5年物ローンプライムレート(LPR)
		14:00	首都圏新築分譲マンション(7月)
		17:00	欧・ユーロ圏経常収支(6月)
		18:00	欧・ユーロ圏CPI(7月)
		20:00	トルコ・中央銀行が政策金利発表
		21:30	加・消費者物価指数(7月)
			米・アトランタ連銀総裁が座談会に参加
8月21日	水	08:50	貿易収支(7月)
		08:50	輸出(7月)
		08:50	輸入(7月)
		10:10	国債買い入れオペ(残存1-3年、残存3-5年、残存5-10年)(日本銀行)
		16:15	訪日外客数(7月)
		16:30	独・製造業PMI(8月)
		16:30	独・サービス業PMI(8月)
		16:30	独・総合業PMI(8月)
		17:00	南ア・消費者物価指数(7月)
		27:00	米・連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(7月30-31日会合分)
			オプロが東証グロースに新規上場(公開価格:1300円)
			米・20年債入札
			決算発表 アナログ・デバイセズ、ズーム・ビデオ・コミュニケーションズ、シャオミ

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

8 月 19 日～8 月 23 日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
8月22日	木	08:50	対外・対内証券投資(先週)
		09:30	製造業PMI(8月)
		09:30	サービス業PMI(8月)
		09:30	総合PMI(8月)
		10:00	中・SWIFTグローバル支払い元建て(7月)
		14:00	印・製造業PMI速報(8月)
		14:00	印・サービス業PMI速報(8月)
		14:00	印・総合PMI速報(8月)
		15:00	工作機械受注(7月)
		17:00	欧・ユーロ圏製造業PMI(8月)
		17:00	欧・ユーロ圏サービス業PMI(8月)
		17:00	欧・ユーロ圏総合PMI(8月)
		17:30	英・製造業PMI(8月)
		17:30	英・サービス業PMI(8月)
		17:30	英・総合PMI(8月)
		21:30	米・新規失業保険申請件数(先週)
		22:45	米・製造業PMI(8月)
		22:45	米・サービス業PMI(8月)
		22:45	米・総合PMI(8月)
		23:00	米・中古住宅販売件数(7月)
		23:00	欧・ユーロ圏消費者信頼感指数(8月)
			韓・中央銀行が政策金利発表
			米・ジャクソンホール会議(カンザスシティー連銀主催の年次経済シンポジウム、24日まで)
			米・30年債入札
			欧・欧州中央銀行(ECB)議事要旨(7月会合)
			決算発表 百度
8月23日	金	08:30	消費者物価コア指数(7月)
		09:30	衆院財務金融委員会が閉会中審査、植田日本銀行総裁や鈴木財務相が出席
		13:00	参院財政金融委員会が閉会中審査、植田日銀総裁や鈴木財務相が出席
		14:30	全国百貨店売上高(7月)
		14:30	東京地区百貨店売上高(7月)
		20:00	ブ・FGV消費者物価指数(IPC-S)(先週)
		21:30	加・小売売上高(6月)
		23:00	米・新築住宅販売件数(7月)
			印・外貨準備高(先週)
			欧・ECBがユーロ圏CPI予想(7月)

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

■(日)7 月貿易収支
8 月 21 日(水)午前 8 時 50 分発表予定

（予想は、－2438 億円）　先行指標となる 7 月上中旬分の貿易収支は－4744 億円。前年同期比で赤字幅は 2 倍以上に拡大した。昨年 7 月の貿易収支は－613 億円だったが、今年 7 月の赤字幅は 2000 億円を超える見込み。

■(欧)8 月 S&P グローバルユーロ圏製造業 PMI
8 月 22 日(木)午後 5 時発表予定

（予想は、45.6）　参考となる 7 月実績は 45.8 にとどまった。生産指数の低下が要因。8 月については需要の持ち直しが遅れていることなどから、大幅な改善は期待できない。

■(米)8 月 S&P グローバルサービス業 PMI
8 月 22 日(木)午後 10 時 45 分発表予定

（7 月実績は、55.0）　参考となる 7 月実績は 55.0 で速報値から下方修正された。大幅な需要増加は期待できないため、サービス価格を引き上げることは難しくなっている。8 月については 7 月実績をやや下回る可能性がある。

■(日)7 月全国消費者物価コア指数
8 月 23 日(金)午前 8 時 30 分発表予定

（予想は、前年比＋2.7%）　参考となる 6 月実績は前年比＋2.6%。電気・ガス代補助金の削減の影響によって押し上げられた。7 月もこの状況は続くこと、サービス価格の上昇が続いていることから、7 月のコアインフレ率は 6 月実績を若干上回る可能性がある。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
8月19日	3076	あいHD	プライム	15:00
	6327	北川精機	スタンダード	15:00

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

格上げ・買い推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
8月13日	いちよし	6315	TOWA	B→A格上げ	12200
	野村	5232	住友大阪	NEUTRAL→BUY格上げ	3930→4620
8月14日	いちよし	5805	SWCC	B→A格上げ	3800→6500
		6055	Jマテリアル	B→A格上げ	2200
		8154	加賀電子	B→A格上げ	7000
	東海東京	3292	イオンリート	OUTPERFORM新規	162100
	野村	5803	フジクラ	NEUTRAL→BUY格上げ	3100→4500
		6857	アドバンテス	NEUTRAL→BUY格上げ	5800→7200
8月15日	いちよし	9412	スカパーJ	B→A格上げ	1100→1150
	東海東京	4202	ダイセル	NEUTRAL→OUTPERFORM格上げ	1230→1660
8月16日	JPモルガン	4506	住友ファーマ	UNDERWEIGHT→NEUTRAL格上げ	250→500
	シティ	4021	日産化	2→1格上げ	5400→5600

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

格下げ・売り推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
8月13日	野村	3861	王子HD	BUY→NEUTRAL格下げ	790→640
8月14日	SMBC日興	9432	NTT	1→2格下げ	180→155
	シティ	3436	SUMCO	1→2格下げ	3000→1700
8月15日	SMBC日興	5201	AGC	1→2格下げ	6300→5400
	みずほ	6013	タクマ	買い→中立格下げ	2150→1750
	モルガン	3279	API	OVERWEIGHT→EQUALWEIGHT格下げ	442000→367000
	岡三	3349	コスモス薬品	強気→中立格下げ	16800→15000
8月16日	ゴールドマン	6367	ダイキン工	買い→中立格下げ	33000→22000
	東海東京	2908	フジッコ	NEUTRAL→UNDERPERFORM格下げ	1970→1390

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

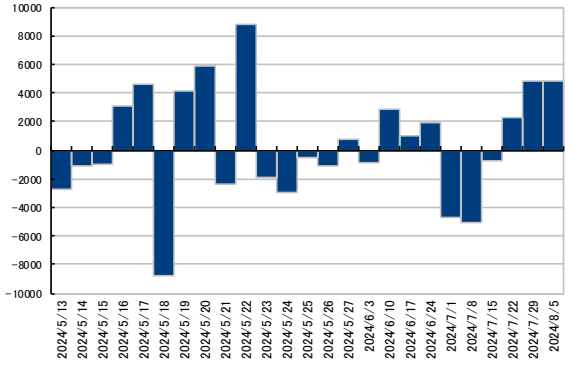
8 月第 1 週:外国人投資家は総合で売り越しを継続

8 月第 1 週の投資主体別売買動向によると、外国人投資家は総合で 9740 億円と売り越しを継続した。現物は買い越しに転じ、TOPIX 先物と 225 先物は売り越しを継続した。個人投資家は総合で 312 億円と買い越しを継続した。

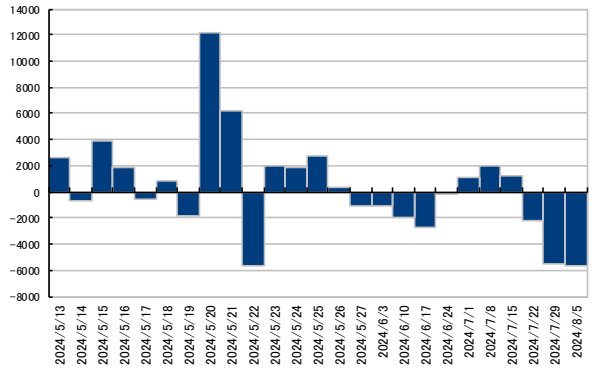
そのほか、投信は 912 億円と買い越しを継続し、都地銀は 301 億円と売り越しに転じた。生・損保は 498 億円と売り越しを継続し、事法は 4811 億円と買い越しを継続し、信託は 4142 億円と買い越しに転じた。

なお、自己は現物で売り越しを継続し、TOPIX 先物と 225 先物で買い越しを継続し、総合で 375 億円と売り越しに転じた。この週の裁定残は前週末比 8168.83 億円減（売り越し）とネットベースで 7298.37 億円の買い越しとなった（買い越し幅減少）。週間の騰落率は日経平均で 2.46%の下落だった。

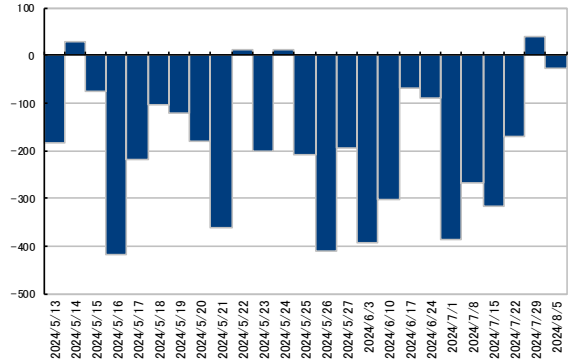
個人　単位:億円



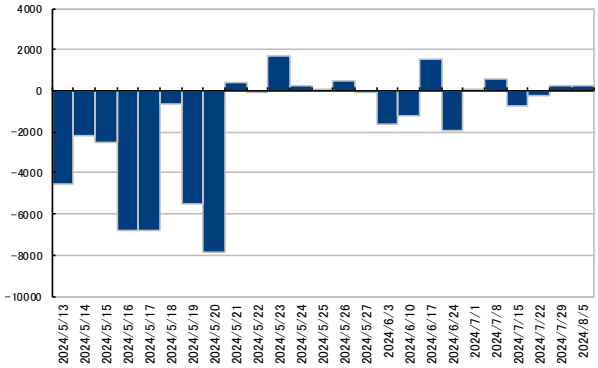
外国人　単位:億円



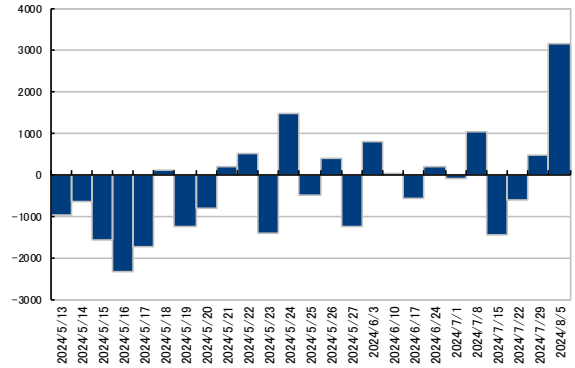
生・損保　単位:億円



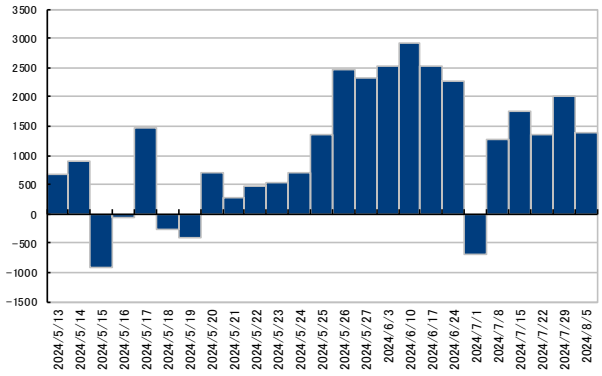
信託銀　単位:億円



投信　単位:億円



事業法人　単位:億円



本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

単位：億円

	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
現物	24/04/30	▲1,420	▲2,913	1,909	1,446	704	10	309	257
	24/05/07	▲2,522	▲528	2,701	▲499	1,363	▲208	▲248	85
	24/05/13	▲2,153	▲1,093	384	374	2,477	▲412	▲24	492
	24/05/20	▲840	715	▲1,017	▲1,258	2,325	▲196	▲11	▲108
	24/05/27	932	▲865	▲1,102	793	2,514	▲395	▲191	▲1,644
	24/06/03	▲2,280	2,811	▲1,941	15	2,904	▲301	▲90	▲1,250
	24/06/10	▲2,085	975	▲2,694	▲570	2,513	▲70	▲137	1,557
	24/06/17	▲2,557	1,910	▲185	186	2,276	▲91	▲22	▲1,918
	24/06/24	4,141	▲4,722	1,141	▲85	▲681	▲386	▲201	33
	24/07/01	260	▲5,104	1,924	1,032	1,256	▲270	▲284	522
	24/07/08	▲30	▲715	1,258	▲1,463	1,748	▲317	▲106	▲744
	24/07/15	▲300	2,243	▲2,177	▲601	1,369	▲172	▲43	▲257
	24/07/22	▲2,534	4,882	▲5,525	469	2,016	39	8	264
	24/07/29	▲4,355	4,796	▲5,670	3,145	1,394	▲27	132	247
	24/08/05	▲13,150	204	4,554	641	4,869	▲77	▲251	2,107

単位：億円

	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
TOPIX先物	24/04/30	▲769	844	▲73	19	▲7	▲115	▲161	205
	24/05/07	▲496	▲794	▲1,194	▲144	▲1	41	2,355	210
	24/05/13	776	697	▲1,797	11	▲0	53	33	194
	24/05/20	▲808	▲547	1,137	61	▲0	66	▲70	106
	24/05/27	▲625	▲237	1,040	▲92	5	▲109	56	18
	24/06/03	1,312	388	▲1,367	▲28	▲5	16	▲243	▲110
	24/06/10	850	▲72	▲645	67	7	▲35	181	▲422
	24/06/17	3,416	▲317	▲3,158	▲42	0	11	80	43
	24/06/24	▲3,311	▲95	1,787	180	▲2	▲81	▲48	1,560
	24/07/01	▲1,027	47	2,483	▲488	2	24	▲189	▲831
	24/07/08	2,437	362	4,916	▲1,521	6	398	85	▲6,586
	24/07/15	2,129	78	▲1,327	31	▲15	▲36	▲99	▲759
	24/07/22	2,642	281	▲2,135	326	0	54	▲837	▲250
	24/07/29	3,108	70	▲2,147	▲90	▲0	▲263	757	▲1,452
	24/08/05	7,446	127	▲5,962	▲208	10	▲269	▲566	▲662

単位：億円

	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
日経平均先物	24/04/30	▲213	445	▲105	413	▲11	▲7	▲12	▲201
	24/05/07	1,954	▲768	▲2,300	37	▲5	14	821	324
	24/05/13	▲104	914	▲614	▲332	▲20	1	316	▲236
	24/05/20	41	▲387	316	▲546	46	▲10	640	▲352
	24/05/27	▲1,199	▲446	350	513	12	1	386	456
	24/06/03	1,020	339	▲59	▲754	▲2	0	▲262	▲274
	24/06/10	▲2,990	158	3,821	450	▲26	▲94	51	▲1,408
	24/06/17	3,304	▲725	▲3,049	▲15	▲17	0	▲488	956
	24/06/24	1,002	▲578	922	▲387	▲90	0	989	▲1,866
	24/07/01	▲642	▲92	4,223	▲714	▲1	▲109	375	▲3,561
	24/07/08	▲1,129	843	3,879	▲508	8	229	▲982	▲2,576
	24/07/15	1,410	323	▲2,458	292	86	▲15	▲1,258	1,427
	24/07/22	601	1,322	▲5,920	357	178	▲79	▲4	3,576
	24/07/29	1,974	▲257	▲2,226	▲351	▲41	▲100	800	477
	24/08/05	5,329	▲19	▲8,332	479	▲68	▲152	516	2,697

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

※　データは直近の新規上場銘柄の結果とスケジュールを全て掲載しています。
証券会社によって取り扱いが異なりますので、お取引の際は各証券会社にご確認ください。

銘柄名	コード	市場	上場日	仮条件（円）	公募株数（株）	売出株数（株）	公募価格（円）	初値（円）	主幹事	8/16終値（円）
オプロ	228A	グロース	8/21	1,240～1,300	564,900	90,600	1,300	－	SMBC日興	－
事業内容:	帳票に関するデータオプティマイズソリューション、サブスクリプションビジネスの販売管理に関するセールスマネジメントソリューションで構成されるクラウドサービス事業									
Cross Eホールディングス	231A	福Q	8/29	1,100～1,180	350,000	350,000	－	－	Jトラストグローバル	－
事業内容:	ハウステンボスや公共施設等の施設管理および廃棄物焼却炉や資源リサイクル施設等の建設、産業用機械等の設置工事業									

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

雲上抜け銘柄(プライム） その1

コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）	コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）
1301	極洋	3910	3787.5	3745	1417	ミライトワン	1991	1872.25	1781.5
1762	高松G	2888	2776.5	2486	1925	大和ハウス	4408	4357	3877
1945	東京エネシス	1139	1110	1057.5	2109	DM三井製糖	3190	3155.25	2720.5
2117	ウェルネオS	2195	2183.75	2003	2124	JACR	703	689.25	664.5
2153	イージェイHD	1696	1655.5	1596.5	2170	LINK＆M	574	569.5	532.5
2266	六甲バター	1400	1360.75	1374.5	2307	クロスキャット	1168	1116.5	1142.5
2337	いちご	388	355.25	328.5	2378	ルネサンス	1017	1011.75	1011
2432	ディーエヌエー	1705	1398	1633.5	2440	ぐるなび	329	288.25	326.5
2461	ファンコミ	408	406.75	405.5	2501	サッポロHD	7246	6331.25	5324.5
2533	オエノンHD	395	377.25	357.5	2587	サントリーBF	5167	4806.5	4908.5
2685	アダストリア	3460	3379.75	3037.5	2695	くら寿司	3695	3637.5	3552.5
2737	トーメンデバ	6200	5256.25	5905	2742	ハローズ	4280	4248.75	3767
3036	アルコニックス	1417	1352.5	1373.5	3086	Jフロント	1539	1427.75	1408.5
3156	レスター	2931	2888.25	2654	3221	ヨシックス	2928	2877.25	2625.5
3231	野村不HD	4135	3817.75	3475	3245	DEAR・L	933	913	823
3289	東急不HD	1035	954	828	3443	川田TECH	2639	2566.75	2190
3445	RSテクノ	3415	2834	2975.5	3457	AndDo	1074	1061.25	1069
3458	シーアールイー	1480	1444.25	1393	3659	ネクソン	2947	2706.5	2767
3687	Fスターズ	1550	1475	1403.5	3834	朝日ネット	658	618.25	630
3865	北越コーポ	1435	1406.75	1258	4028	石原産	1487	1453.25	1345
4045	東亜合	1540	1506	1437	4047	関電化	970	879.75	907.5
4064	カーバイド	1766	1643.25	1583.5	4095	日パーカライ	1206	1181.5	1116.5
4118	カネカ	3812	3762.5	3786.5	4186	東応化	3946	3613.5	3331.5
4548	生化学	851	770.25	791.5	4553	東和薬品	2827	2755.75	2471.5
4611	大日塗料	1100	1073.5	1000.5	4617	中国塗料	1880	1800.5	1593
4681	リゾートトラ	2494	2417.75	2319	4725	CACHD	1770	1753.25	1699
4812	電通総研	5700	5398.75	5187.5	4828	ビーエンジ	4130	4093.75	3757.5
4928	ノエビアHD	5420	5288.75	5377.5	4931	新日本製薬	1695	1690	1591
5011	ニチレキ	2410	2363.5	2034.5	5186	ニッタ	3705	3677.5	3397
5195	バンドー化	1762	1649.25	1404.5	5310	東洋炭素	6080	5915	5527.5
5333	日本ガイシ	1931	1825.75	1845.5	5706	三井金	4716	4396.5	3974
5711	三菱マ	2642	2552.25	2407.5	5831	しずおかFG	1363	1298.5	1186.5
5976	ネツレン	1038	1015.5	874.5	6062	チャームケア	1381	1271	1227.5
6113	アマダ	1572	1536.5	1414.5	6136	OSG	2016	1994.75	1922.5
6140	旭ダイヤ	886	857.75	879.5	6194	アトラエ	862	716.75	825.5
6277	ホソミクロン	4415	4298.75	3767	6284	ASB機械	5000	4477.5	4525
6301	コマツ	4326	3983	3787.5	6315	TOWA	7700	6797.5	5296.5
6331	菱化工機	3585	3450.75	3113.5	6332	月島HD	1381	1331.5	1232.5
6345	アイチ	1136	1082.5	989	6351	鶴見製	3805	3513.25	3046
6361	荏原製	2084	1888	1706	6369	トーヨーカネツ	3995	3982.5	3535.5
6420	フクシマガリ	5570	5313.75	5095	6479	ミネベア	3146	2828	2684.5
6504	富士電機	8512	7472.5	7015	6622	ダイヘン	6750	6400	5807.5

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

雲上抜け銘柄(プライム） その2

コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）	コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）
6640	I・PEX	1874	1676	1568.5	6674	GSユアサ	2588	2359.25	2420.5
6703	OKI	1017	1013.5	940	6723	ルネサス	2510	2489.75	2286.5
6727	ワコム	670	658.25	632	6744	能美防災	2137	2130.25	1977
6800	ヨコオ	1691	1499.5	1657	6859	エスペック	2505	2471	2341
6861	キーエンス	66340	63230	61985	6923	スタンレー電	2794	2629	2665.5
6925	ウシオ電	2097	2037.5	1895	6951	日電子	6212	6148.25	5579
6981	村田製	3084	2893	2771.5	6986	双葉電子	546	530.5	534.5
7059	コプロHD	1659	1578	1228	7173	東京きらぼし	4520	4210	3637.5
7182	ゆうちょ銀行	1435	1427.5	1296.5	7189	西日本フィナンシ	1840	1665	1462
7224	新明和工	1339	1238	1286.5	7238	曙ブレーキ	141	117.5	128.5
7239	タチエス	1918	1831	1591.5	7250	太平洋工	1402	1391.25	1320.5
7313	TSテック	1868	1810	1787	7322	三十三フィナンシ	1914	1863.25	1759
7347	マーキュリアHD	843	778	764	7350	おきなわFG	2599	2398	2316.5
7389	あいちFG	2565	2454.25	2386	7606	Uアローズ	2188	1898.75	2132.5
7628	オーハシテク	1798	1784.25	1696	7637	白銅	2430	2403	2418
7717	Vテク	2908	2576	2495	7725	インターアク	1308	1072	1242
7739	キヤノン電子	2184	2115	2046.5	7856	萩原工業	1559	1555.75	1538
7888	三光合成	625	606	624	7966	リンテック	3085	2812	2628.5
8002	丸紅	2531	2370.25	2197	8005	スクロール	1004	981	933.5
8007	高島	1238	1227.75	1076.5	8016	オンワードHD	537	510.75	456
8053	住友商	3484	3266.5	2932.5	8078	阪和興	5270	5156.25	4707.5
8079	正栄食	4760	4697.5	4610	8084	RYODEN	2602	2579	2303
8095	アステナHD	504	489.25	481	8103	明和産	679	669	669
8158	ソーダニッカ	1162	1122.75	1013	8174	日瓦斯	2332	2313.25	2065.5
8331	千葉銀	1268	1098.25	1011	8338	筑波銀行	291	258.5	255.5
8364	清水銀	1575	1571.25	1560.5	8366	滋賀銀	3710	3702.5	3411.5
8425	みずほリース	1055	1012.5	888.5	8558	東和銀	657	631.25	613.5
8570	イオンFS	1354	1287.75	1265.5	8595	ジャフコG	1917	1716.25	1891
8616	東海東京	545	534.75	468.5	8622	水戸証	466	448.5	393.5
8628	松井証	796	786	787.5	8707	岩井コスモ	2089	1963	1757
8715	アニコムHD	627	582.25	594.5	8795	T&DHD	2452	2436.75	2147
8860	フジ住宅	724	719.5	711	8876	リログループ	1815	1465.5	1718.5
8897	ミラースHD	517	478	442.5	8935	FJネクHD	1182	1167.5	1125.5
9104	商船三井	4977	4770	4280.5	9107	川崎船	2150	2128	1757.5
9119	飯野海	1263	1233.25	1085	9247	TREHD	1496	1152	1304.5
9248	人・夢・技術G	1763	1762.5	1679.5	9274	KPPGHD	683	673.5	668
9412	スカパーJ	820	796.75	722.5	9474	ゼンリン	889	878.25	880
9513	Jパワー	2447	2426.5	2343	9605	東映	3990	3985.5	3827
9699	西尾HD	4015	3841.25	3591.5	9719	SCSK	2783	2757	2449.5
9729	トーカイ	2106	2062.75	1993.5	9739	NSW	2895	2871.5	2554
9837	モリト	1385	1347.25	1227.5	9850	グルメ杵屋	1110	1094.5	1093.5
9928	ミロク情報	1788	1782.25	1725.5	9936	王将フード	7810	7777.5	7165

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

雲下抜け銘柄（プライム）

コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）	コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）
1929	日特建	1053	1113.25	1073.5	2269	明治HD	3448	3501	3451.5
3397	トリドール	3560	4271	3762.5	3924	ランドコンピュ	687	830.75	720
8798	アドバンクリエ	940	1033.5	1091.5					

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

株式、債券、ファンド、上場ETF及び上場リートのご購入の際のご注意事項

当資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的としており、個別の金融商品の投資勧誘を目的として作成または提供するものではありません。当資料は、作成者が信頼できると判断した情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性や完全性を、または、将来の経済・市況動向等を予測・保証するものではありません。また、当資料中の見解等は今後予告なく変更される場合がありますので、投資に係る最終決定はご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。金融商品等の手数料等及びリスクについては、当該商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書及びお客さま向け資料等に記載しておりますので、よくお読みください。

【お取引時の手数料について】（営業店でお取引の場合の手数料率、税込表示）

● 国内株式の売買取引には約定代金に対して最大1.155%の売買手数料（同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円）をいただきます。マルチネット取引で売買いただく場合には対面取引の基本手数料から20%割引（当該金額が2,200円に満たない場合には、一律2,200円）となります。又、外国株式の売買取引には売買金額（現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合は加え、売りの場合は差し引いた金額）に対して最大0.88%の委託手数料（同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円）をいただきます。
● 非上場債券（国債、地方債、政府保証債、社債等）を当社が相手方となり、お買付けいただく場合には、購入対価のみお支払いいただきます。
● ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。＜直接費用＞購入手数料（スイッチング手数料を含む）上限3.85%、換金手数料上限1.10%、信託財産留保額上限0.50%が必要となります。マルチネット取引の場合は購入手数料（スイッチング手数料を含む）、換金手数料について対面取引手数料の20%割引となります。
＜間接費用＞運用管理費用（信託報酬）上限2.50%、(注)その他の費用・手数料（監査費用、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用、信託事務に要する諸費用等）をご負担頂きます。（注）その他費用・手数料は、運用状況等により変動する為、料率の上限等を示すことができません。
● 外国株式、外国債券、外国投資信託を売買取引する際の円貨と外貨の交換レートには、約定代金に応じて当社が決定する為替スプレッドがあります。

【リスクについて】

●＜株式、上場ETF、債券のリスク＞株式や上場ETFの売買取引については、株価の変動により投資元本を割り込むことがあります。債券は金利水準の変動等により価格が上下し、損失が生じるおそれがあります。外国株式、外国債券及び外貨建て資産に投資する上場ETFは、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により投資元本を割り込むことがあります。
● ＜為替リスク＞外貨建て商品の場合、外貨建てでは投資元本を割り込んでいない場合でも、為替変動あるいは外貨交換の際の為替スプレッドにより、円換算ベースで投資元本を割り込み損失を被る場合があります。
● ＜上場リートのリスク＞リートは、不動産などで運用を行う上場投資法人です。リート市場価格については、金融経済動向、不動産市況、災害（地震、火災等）等の影響を受け変動し損失が生じるおそれがあります。分配金は不動産などからの収入に応じ変動します。金融商品取引所が定める基準に抵触し上場廃止になった場合には、取引が著しく困難になる可能性があります。
● ＜ファンドのリスク＞ファンドは、主に国内外の株式、債券、不動産投資信託証券など値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替リスクもあります）に投資しますので基準価額は大きく変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。また、「毎月分配型」及び「通貨選択型」ファンドの“収益分配金に関する留意事項”及び“通貨選択型投資信託の収益イメージ”は、必ずご確認して頂きたい重要事項となっておりますので、投資信託説明書（交付目論見書）をよくお読みください。

ひろぎん証券

商号等　ひろぎん証券株式会社
金融商品取引業者中国財務局長（金商）第20号
加入協会　日本証券業協会

（帳票J-10-002 企画部2024年4月改正）

本店営業部	〒730-0031	広島市中区紙屋町1-3-8	TEL:082-245-5000
今治営業所	〒794-0022	今治市室屋町1-1-13	TEL:0898-55-8280
福山支店	〒720-0812	福山市霞町1-1-1	TEL:084-922-1321
岡山営業所	〒700-0826	岡山市北区磨屋町1-3	TEL:086-222-1561
府中支店	〒726-0004	府中市府川町335-1	TEL:0847-45-8500
尾道支店	〒722-0035	尾道市土堂2-7-11	TEL:0848-23-8121
因島支店	〒722-2323	広島県尾道市因島土生町2017-3	TEL:0845-22-2291
竹原支店	〒725-0026	竹原市中央5-5-5	TEL:0846-22-2295
三原支店	〒723-0014	三原市城町1-25-1	TEL:0848-67-6681
呉支店	〒737-0045	呉市本通3-5-4	TEL:0823-21-6401
三次支店	〒728-0012	三次市十日市中2-13-26	TEL:0824-62-3121
可部支店	〒731-0221	広島市安佐北区可部3-20-21	TEL:082-815-2600
広島西支店	〒733-0841	広島市西区井口明神1-17-4	TEL:082-277-2700
東広島支店	〒739-0014	東広島市西条昭和町2-7	TEL:082-422-3621
廿日市支店	〒738-0024	廿日市市新宮1-9-34	TEL:0829-31-6611
岩国支店	〒740-0018	岩国市麻里布町2-7-7	TEL:0827-22-3161
徳山支店	〒745-0034	周南市御幸通2-15	TEL:0834-31-5350
宇部支店	〒755-0029	宇部市新天町2-3-3 ポスティビルド3階	TEL:0836-31-1105
萩支店	〒758-0027	萩市吉田町51-11	TEL:0838-25-2121

ネットセンター（インターネット取引）　https://www.hirogin-sec.co.jp
コールセンター（コール取引）　フリーアクセス:0120-506-084

資料作成:株式会社フィスコ
〒107-0062 東京都港区南青山五丁目13番3号
FISCO